

鶴高の特進 —少人数で育む絆が、大きな成果を生む—

1 国公立大も難関私大も目指せるカリキュラム

- ・1年次は5教科の必修科目をまんべんなく学習し、幅広い知識を身につけます。
- ・2年次に文理選択をしますが、理系の国語・公民科目、文系の数学の時間数が確保されているため、国公立型のカリキュラムに対応しています。
- ・3年次にはさらに細かく科目選択をおこない、自己の進路目標に合った授業をより少人数で受けることができます。

2 少人数制のクラス編成で、3年間担任が変わらない

- ・1クラス30人前後の人数設定で、担任と生徒の距離がとても近いのが特徴です。
- ・担任は生徒の学習状況や成績、進路相談はもちろん、日常の些細な変化にも気づきやすく、気軽に話せる存在です。

3 個人面談・ガイダンスによる進路指導

- ・年3回の担任との個人面談、年2回の三者面談を通して生徒の学校生活の様子や学習サポート、進路相談などに応じています。
- ・学年ごとに各学期に学習アドバイスや進路情報提供などのガイダンスを実施しています。

4 模試のデータは1年次から集約・管理し、教科担当者とも共有

- ・校内で受けた模試のデータはその都度編集し、教員間で成績動向などの分析会をおこない、生徒指導に役立てています。
- ・担任は面談の資料としてだけでなく、日常の学習指導や志望校決定、受験直前まで用いる貴重な資料として活用しています。

5 文武両道を実践 スキマ時間の活用に「スタディサプリ」を導入

- ・部活動加入率が85.0%（H29前期、1～3年計）で、生徒は委員会活動にも意欲的です。
- ・限られた時間を有効に使い、学力を維持・向上させるための取り組みとしてスタディサプリを導入しています。（H29年度は3年生のみ導入）

6 2年次以降の「特進棟」は自習室完備、赤本の貸出も充実

- ・2年次からは独立した校舎である「特進棟」で授業を受けます。
- ・特進棟内の自習室の開放もおこなっていて、赤本のバックナンバーもそろっています。
卒業生が寄贈していくものも多く、貸し出しもおこなっています。

7 「チーム特進」は同学年だけでなく、学年を越える

- ・3年間、メンバーが変わらない特進の生徒の絆は強く、受験を乗り越える最良のチームです。